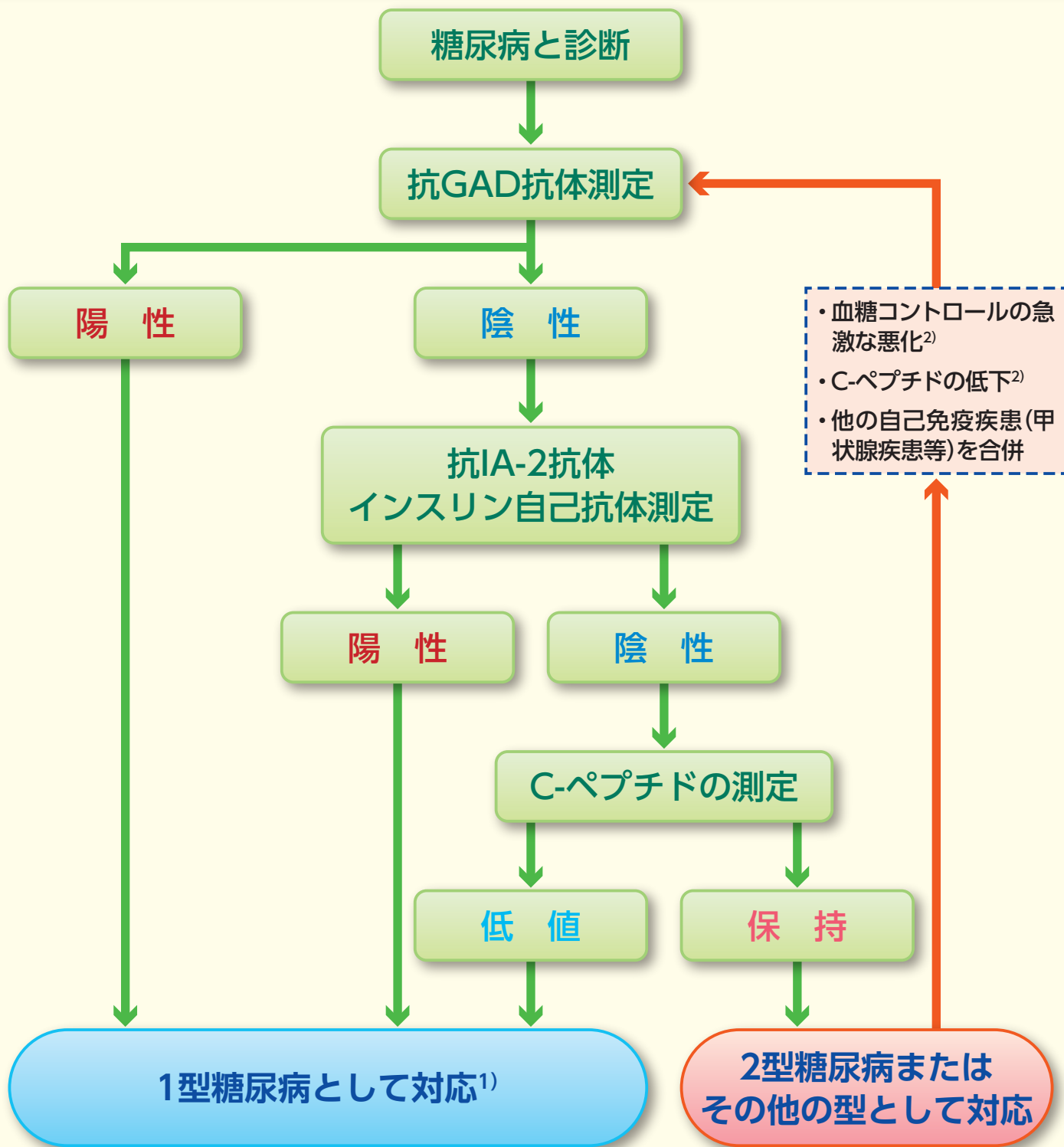


抗GAD抗体

糖尿病診断時に抗GAD抗体を測定することは病型診断のために重要です。
当初、抗GAD抗体が陰性であっても経過中に陽性となることもあり、注意が必要です。

監修：東京都済生会中央病院 糖尿病・内分泌内科 部長 島田 朗



1) 糖尿病専門医へのコンサルテーションが望ましい

2) 抗GAD抗体陰性が確認されていた2型糖尿病でもその後、抗GAD抗体が陽性となり1型糖尿病と診断された例が報告されている

2型糖尿病

1型糖尿病

1型糖尿病の中には、数年かけて徐々にインスリン分泌能が悪くなっていくものがあります。この場合は、早い段階でインスリン療法の必要性を検討することが大切です。早期からのインスリン療法はSU剤に比べて内因性インスリン分泌を保持することが示されています。

抗GAD抗体などの膵島関連自己抗体について教えて

まだまだ知らない？

Q なぜ2型糖尿病に一見みえても、抗GAD抗体を測定した方が良いの？

A 肥満があり、典型的な2型糖尿病にみえても抗GAD抗体陽性例が意外と存在し、測定しないと区別がつかないケースがあるためです。また、当初、抗GAD抗体が陰性でも何年かしてから陽性になるケースもあります。

Q どういうタイミングで測定するの？

A 血糖コントロールが急激に悪化した時やC-ペプチドが低下した時、また、他の自己免疫疾患（甲状腺疾患など）を合併した際などは特に測定する意義があります。

Q 抗GAD抗体が陽性だった場合は、どうすれば良いの？

A インスリン療法の必要性を含めて治療方針の見直しを行いましょう。原則として糖尿病専門医へのコンサルテーションが望ましいと思われます。なお、45歳未満の場合、約75%で現在2型糖尿病にみえても5年以内にインスリン依存へ進行したという報告があります。

引用：Turner R, et al. (1997). UKPDS 25: autoantibodies to islet-cell cytoplasm and glutamic acid decarboxylase for prediction of insulin requirement in type 2 diabetes. UK Prospective Diabetes Study Group. Lancet 1;350(9087):1288-93

Q 抗GAD抗体以外の膵島関連自己抗体は？

A 他の膵島関連自己抗体には抗IA-2抗体、インスリン自己抗体などがあり、1型糖尿病の診断や病態の進行予知などに用いられています。

検査要項

検査コード	検査項目	材料	検体量	容器	保存条件	所要日数	検査方法	基準値	診療報酬区分番号	保険点数	保険収載名称
0187	抗GAD抗体	血清	0.3mL	A1→A2	冷蔵	2~5	RIA法	1.5未満 U/mL	D008-13	140	抗グルタミン酸デカルボキシラーゼ抗体 (抗GAD抗体)

※抗グルタミン酸デカルボキシラーゼ抗体 (抗GAD抗体)は、すでに糖尿病の診断が確定した患者に対し、1型糖尿病の診断に用いた場合に算定できる。
※九州・沖縄地区は所要日数3~6日となります。